

第2回 全国若手会

高分子学会理事，事務局長 佐藤晴基

第2回となる全国若手会が、アカデミア20名、企業13名、合計33名に参加いただき、石川県金沢市の施設で10月31日(木)～11月2日(土)に開催されました。

年次大会がオンラインになることから、若手の交流の場を設けたいということもあり、昨年からはまりました。今年も多様なメンバーが集まり、日常の業務から離れてリアルな交流ができ、大変有意義な3日間となりました。幹事長の酒井崇匡氏(東京大学)、ファシリテーター・竹花 晶氏(旭化成)、グラフィックファシリテーター・丸山ユウジ氏には心から感謝いたします。

初日は、全員のバックボーンを知ることを目的に3回のグループ分けを行い、自分の「推し」や「好物」の話を交え、研究や仕事の紹介を行いました。夕食からは20代から40代のメンバーが付度なしの懇親を深めて、酒井幹事長の「驕り宣言」も発動し大盛り上がりでした。



2日目はキャリアに関するワークショップを行いました。先人のキャリアとして酒井氏や小柳津氏(事務局)の話を聞いた後に、日頃から感じているキャリアの悩みについて挙げていただきました。「自分のキャリアと家庭の両立」、「研究者はなぜプレイヤーでい続けられないのか」など、最初は悶々とした表情でディスカッ

ションをしていましたが、チーム内で対話が進むにつれ、徐々に自分の強みや持ち味が理解でき、進むべき方向性が見えてきたようでした。最後には、自分のキャリアを深め/広げるアイデアをチーム内で得ることができ、爽やかなチャレンジャーに変身していました。「Think Together」の大切さや「対話から共創・イノベーションが起こる」ことを皆さんが感じていたように思います。

3日目は将来に目を向け、「これからの人生で探索していきたいテーマ」を各人でまず考えていただきました。漠然とした内容で難しい課題でしたが、「研究と教育を両立させる」、「自分自身も楽しみながら研究を行う」など、若手研究者の熱い思いをたくさん聞くことができました。また、前日同様、チーム内の対話を通じて共創を求めていく姿は、非常に頼もしく感じることができました。

この3日間を通じて、若いときにネットワークを形成することの大事さを改めて感じました。将来の共同研究やオープンイノベーションの活動に繋がるだけでなく、自分自身の新たなキャリアを考えていく上で、同じ領域で活躍している共創相手を得ることはとても重要です。もう一つは、熱い志をもつ若手をもっともっと自由に研究ができるように環境を整備する必要性を感じました。事務局としても、支援できる仕組みを考えていきたいと思いました。

最後にアンケートの結果を少し紹介します。何人の方と新たに接点をもつことができたか? : 2~5名4%、5~8名23%、8~10名19%、10名以上54%。再度参加したいか? : したい85%、しなくてよい15%。この企画を紹介したい方がいるか? : いる85%、いない15%。ワークショップでネットワーク形成や新たな気づきが得られたという感想も多くいただき、2回目より充実した内容となったかなと安堵しています。



2日目終了後の集合写真
(予告) 第3回 全国若手会
開催日：2025年10月29日(水)～31(金)